

【「南湖の生きもの さかな・貝・カエル・ヘビ」について】

- 何がいるの?・どうやって守っていくの? -



稲葉修氏(南相馬市博物館 学芸員)による講演

①魚類

○在来種と考えられる魚種



- 南湖には15種類の魚が生息している。その中で、元々いた魚は3種類と推定される。
(ウキゴリ・ドジョウ・ギンブナ)
- ドブガイは3種類確認。(ヌマガイ・タガイ・フネドブガイ) 福島県にカラスガイはいない。
- カエルは、4種類が生息している。 福島県内でトノサマガエルは会津地方にしかない。
(トウキョウダルマガエル・ニホンアカガエル・ウシガエル・アマガエル)
- 南湖周辺には、シマヘビ、アオダイショウ、ヤマカガシなどが生息していると思われる。
- ユスリカ(蚊に似た生物)とコイ科の関係の論文を読んだことがあり、オイカワが増えるとユスリカが減る話がある。南湖においては、ウキゴリ、ヨシノボリ、ギンブナ等がユスリカを食べていると思われる。

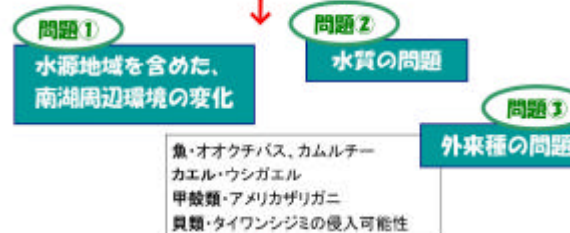
稲葉修氏による提案(アドバイス)

- ルアー釣りをしている方々からの意見を聞きながら、南湖で外来種の駆除をかねた釣り大会など行ってみてはどうか。
- 南湖にたずさわる方々(南湖神社の神主さん、御店の人達、釣り名人等)による南湖の講演を行ってみてはどうか。
- 近くにJR新白河駅があるので、JR東日本とタイアップして「南湖の生きもの」の観察会や鏡山のハイキングツアーなどを行ってみてはどうか。

○南湖の生き物 魚・貝・カエル・ヘビ・これから

—どう守り、どう未来に伝えるか—

半人工ではあるが、県南部の里山景観とともに、貴重な自然や生き物の残る南湖



時間をかけてでも、これらの問題をいかにクリアし、みんなの南湖を守り、活用していくべきか
貴重な自然や生き物の残る南湖

- ① 周辺環境と水質の保全・復元
- ② 在来種の保全(場合によっては活用)
- ③ 外来種の駆除(長期の計画)
- ④ 環境教育の場・市民活動の拠点に利用
- ⑤ 行楽地という利点を活かし、観光客参加型の行事

【「第2回南湖祭の振り返り」について】



県南建設事務所企画調査課による説明



- 平成20年11月1日(土)に南湖祭が行われ1000人以上の方々が来られた。
- 南湖検定、ステージ発表などいろいろ行われ大盛況。
- 飲食ブースでは、南湖だんご、けんちん汁などいろいろなものが販売。
- 第2回南湖祭の状況を写真スライドで振り返った。

【「市民活動に関する意見交換」について】



白河市建設部都市計画課による説明

【「南湖公園環境への取り組み」について】

- 南湖のジュンサイ復元にはエコトーン(緩斜面)を復元させる。
- 実験室にて、南湖埋土種子利用によりジュンサイが15年ぶりに発芽。(福島大学共生システム理工学類 黒沢准教授による実験)
- 良い水源を考えるにあたり常盤清水の有効活用で湿地の復元を行う必要がある。
- 南湖の県・市有地(史跡)に常時駐車されているため、地盤が締め固まり松の根は伸びられず戻り根となっている。将来改良が必要。
- 南湖の管理費の中で、今年から新たに松樹幹注入を行う予定。
- 誰でもできる清掃があるのでは。(南湖に感謝のこころ)

ジュンサイの復元には?

- エコトーン復元
- 水質環境改善
- 全窒素濃度
2.69mg/L⇒0.4 mg/L
- 全リン濃度
0.0251mg/L⇒0.03 mg/L(下田・橋本1993)

良い水源を考える

- 常盤清水の有効活用
- 湿地の復元
- 鬼越湧水の導入
- 湧水2箇所専用水路
- 暗渠用水路から通年取水(水田減少)

県・市有地(史跡)に駐車



松の窮状



南湖の管理費

- 清掃等委託業務 ①園地・増補・トイレ清掃・湖面清掃・松こも巻・枯木刈込・草刈 780万円
- 松くい虫防除 110万円
- 松樹幹注入・土壌改良 265万円
- 下草刈り・ヒシ、コナナダモ除去・倒木処理 100万円
- トイレ管理 100万円
- 園地管理費 2200万円

誰でもできる清掃

- 石原さん友月山で10年間草刈り清掃活動市功労表彰
- 生活環境課では週2回清掃 2人と職員1名
- 地元担当表を作り拒否される
- 南湖に感謝のこころを忘れていませんか?